

七夕の雅楽

愛知県芸術劇場ではじめての東京楽所「七夕の雅楽」公演、中部地区を代表する音楽ホールでの「日本雅楽」の紹介、大変素晴らしいことと楽しみしています。

日本雅楽の大事な要素として音楽理論を内包した季節感があります。平安王朝文学源氏物語にも音楽で季節を楽しむ雅な様子が大変多く登場いたします。

祝賀の折の音楽の楽しみ方にも日本人独自の考え方があったようです。また「管絃」演奏の最初に調子を奏することも、チューニングだけではない会場を音色で整える役割があります。

日本文化の情緒感を雅楽演奏で楽しんで頂ければ幸いです。

更に「管絃」では雅楽唯一の「七夕」に係る「朗詠二星」、「彦星と織姫星」の漢詩を歌う朗詠をお届けいたします。

平安時代、先人たちは毎年この曲を聴き「七夕の夜空」を見上げていたものと思います。

また、「舞楽」では落慶の席で舞う「賀殿四人舞」をコンサートホールの素晴らしい音響で聴いて頂きます。

「愛知県芸術劇場コンサートホール」と「日本雅楽」のコラボレーション、「新たなページ」になるようご満足頂ける演奏をお届けいたします。

野原耕二(音楽プロデューサー)

プログラム

第一部 一、壹越調音取

いちこつちょうねとり

西洋音名「レ」の調子を短く演奏し、会場を雅楽の雰囲気整えます。「壹越調」とは雅楽の六調子のうちの一つで「ニ長調」に相当し、また「音取」とはオーケストラのチューニングのようなものになります。

管絃 二、入破

じゅは

6つの楽章からなる源氏物語にも登場する大曲、舞楽「春鶯囀(しゅんのうでん)一具」の第四楽章「入破」。雅楽の大曲で序破急を網羅したフルヴァージョンの事を一具と言いますが、この春鶯囀一具は約1時間におよびます。

三、朗詠 二星

じせい

朗詠(ろうえい)とは、平安期、十世紀から十一世紀に漢詩に旋律を付けた声楽曲として確立され、当時大変盛んに創作された歌ものです。平安期女性は源氏物語のように和歌をたしなみ、男性はやはり漢詩で歌ったようです。今回は季節もの、七夕にちなんで朗詠二星(じせい)を聴いていただきます。～や々と逢えた二つの星が、いつも逢えない恨みなどを話しているうちに もう夜明けと 涼しげな風に二人は驚いてしまう～五色の短冊に願い事を書いて祈る現在と平安時代の人たちとは「七夕」の有り様もだいぶ違うようです。

四、武徳楽

ぶとくらく

中国漢の高祖により作られた舞曲と言われており、古くは序と破の曲に舞もありましたが、現在は序のみ管絃曲として伝承されています。

第二部 一、賀殿 左舞 平舞 四人舞

かてん

源氏物語にも登場する、平安期よりおめでたい席で盛んに演奏された名曲。四人の舞人が、天から操り人形のごとくゆったりと舞います。このゆったり舞うさまを「平舞(ひらまい)」といいます。寸部違わぬ舞様をお楽しみください。

舞楽 二、抜頭 右舞 走舞 一人舞

ばとう

古代シルクロードのマスクダンス。「走舞(はしりまい)」は平舞とは逆に、活発な動きで舞う勇壮な舞です。形相の面を付け舞台狭くと舞う姿は古来より様々な説があります。嫉妬に狂った妃。両親を猛獣に殺され、子が敵討ちにさまよう姿等。

平舞と走舞、舞楽の舞様を舞台芸術としてお楽しみください。

プロフィール



とうきょうがくそ 東京楽所 代表: 多忠輝

おおのただあき

1978年宮内庁式部職楽部のメンバーを主体に創設。有職としての雅楽ではなく、芸術音楽としての雅楽演奏を目的として結成された。累代の楽人に併せて、民間の優秀な雅楽奏者も含めた現在、わが国最大規模であり、高い芸術性を有する雅楽団体である。1978年以来、国内の数多くの雅楽公演に参加、高い評価を得る。1983年、外務省の招請により文化使節としてヨーロッパ各地で公演。1986年、エジプト・カイロ公演。1987年、米国において日本伝統使節団に参加。2005年、日・EU市民交流年事業ベルリン、ロンドン大学公演。2008年、日本／ブラジル交流年舞楽法会7公演。2009年、日ドナウ交流年ウィーン／ブタペスト公演。2011年、日独交流150周年ドイツ国内6公演など世界的な活動を展開している。2012年より、東京オペラシティコンサートホールにて年2回の雅楽定期公演を開催。十数枚のCDを制作出版し、雅楽の普及にも努めている。